第179回「言葉の院外処方箋」

新渡戸稲造記念センター 長 樋野興夫

人生哲学のエッセンス ～ 基礎を培う読書遍歴と授業の大切さ ～

2023年6月8日 ルーテル学院大学(東京都三鷹市)での講義『総合人間学序論』 (10:20～12:00)で、前半はスライドを用いて、後半はテキスト『がん細胞から、学んだ生き方 ～ 「ほっとけ 気にするな」のがん哲学』(へるす出版)を音読しながら進めた。 筆者は、ルーテル学院大学の食堂で昼食をし、午後は講義『現代生命科学I』(13:20～15:00、15:10～16:50)を行った。 『現代生命科学 I』の講義『病理学』では、教科書『カラーで学べる病理学』を用いた。 学生の真摯な姿には、大いに感動した。 【対人援助に関わる職業人としての基礎を培う総合的な大学の授業の大切さ】を実感する1日となった。

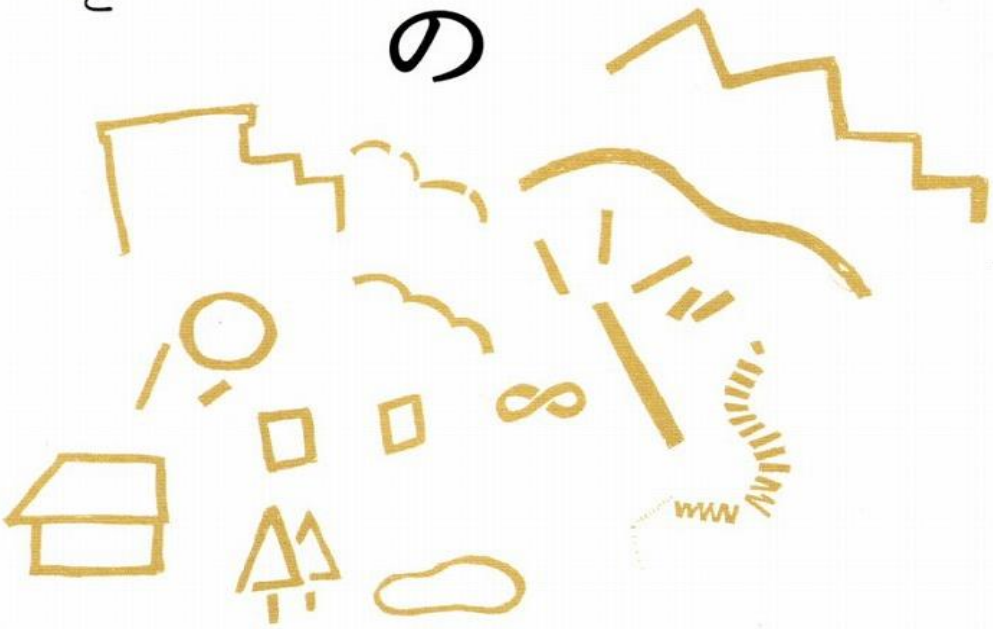
その後、ルーテル学院大学に隣接するICU(国際基督教大学)の『教育社会学・国際教育開発』の西村幹子教授 (教育学・言語教育デパートメント長) と富岡徹郎理事とZoom会議に参加した。 西村幹子先生とは、先日(5月18日)の東京女子大学の理事会で隣席し最初に対面する機会が与えられた。 ICUは、1949年創立、1953年大学設置とのことである。 来年(2024年)の 75 周年創立記念シンポジウムに向けて、今年は準備的シンポジウム【新渡戸稲造(1862-1933)没90周年 & 矢内原忠雄(1893-1961)生誕130周年】が、企画される予感がする。 Wifeが小学校の校長を務めるインターナショナル スクール(CAJ)の卒業生も複数ICUに入学しているようである。 ICU で市民公開シンポジウム『真の国際人 ～ 個性と多様性～』が実現したら歴史的大事業となろう。

6月10日(10:40～12:10)は『早稲田大学エクステンションセンター中野校』での講座【『ジャンル 人間の探求『がんと生きる哲学 ～ 医師との対話を通して『がん』と生きる方法を考える～』】である。 テキスト『がん細胞から学んだ生き方』(へるす出版)を音読しながら進める。 その後、羽田空港から松山空港に向かう。 6月11日 愛媛県八幡浜市文化活動センターでの【第73回講座『伊予塾』(主催：ふるさと大学『伊予塾』実行委員会、愛媛新聞社 共催：大岡記念財団)】で、講演【『がん哲学外来』 ～ がんの悩み受け止めます ～】を依頼された。筆者の若き日からの【内村鑑三(1861-1930)、新渡戸稲造、南原繁(1889-1974)、矢内原忠雄の著作の読書遍歴】と『がん哲学のレッスン ～ 教室で〈いのち〉と向きあう ～』(2020年 かもがわ出版)』】 (画像) が今回、鮮明に想い出された。

樋野興夫

がん哲学のレッスン

教室で〈いのち〉と向きあう



毎年100万人が がんに！
この大変な時代によりよく生きるには、がんに対する考え方と人生観の180度転換が必要。
円熟した**樋野語録**の数々はその転換の道標（みちしるべ）だ。

ノンフィクション作家 **柳田 邦男**

かもがわ出版